



子に贈る 大きな遺産 下水道

快適な環境づくりを目指す公共下水道

雨水や家庭、工場からの汚水などをきれいに処理する緑の下の力持ち——下水道は、健康で明るい街づくりに欠くことのできない施設で、近代都市のパロメーターともいわれています。しかし、日本では下水道の歴史が浅いこともあってまだまだ普及が遅れています。暮らしの安全と清潔を保ち、川や海の汚れを防ぐ下水道の実現に向けて、当市では昭和六十二年から事業に取り組みことになりました。今号では五十九、六十年で策定した「大館市公共下水道基本計画」のあらましについてお伝えします。

市では総合開発計画に基づいた「安全で快適な生活環境が保たれている都市」づくりに向けて、昭和六十二年度から都市施設として公共下水道事業に取り組みことになり、その準備を進めています。

豊かな自然を守る下水道

私たちが文化的で快適な生活を営むための水は、いろいろな形で使用されています。

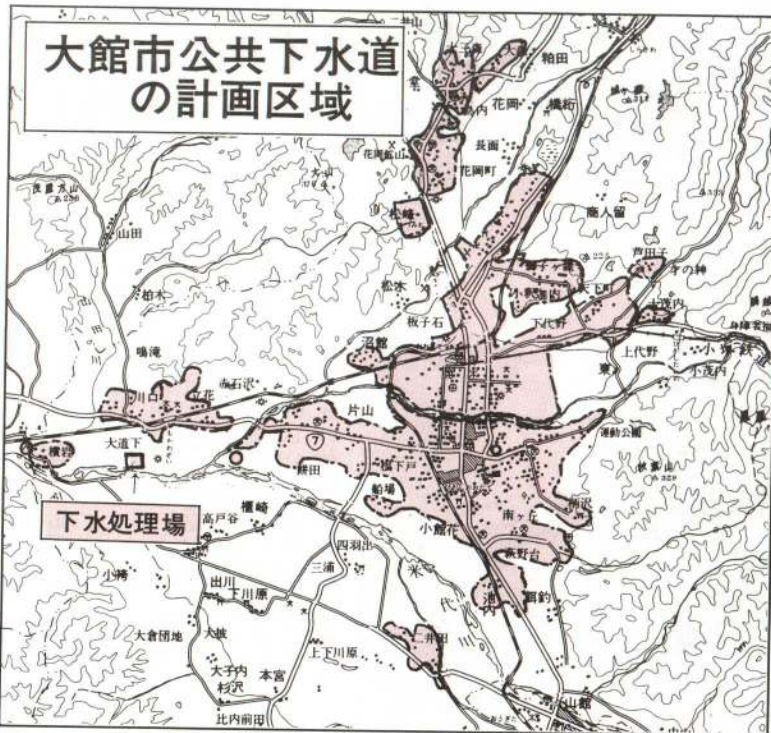
しかし、一度使った水は、なんの手だてもせずに河川に捨てられて、水質を汚濁したり、環境を破壊したりしています。水は、私たち人間だけのものではありません。動物や植物など自然界すべての大切な資源であると同時に財産でもあるのです。そのために私たちが使った汚れた水は、下水道を通して、もとのきれいなものにして自然に返さなければなりません。下水道は、このように壊れゆく自然のサイクルを正常な形にするために役立つものです。そのためにも立ち遅れている下

水道を早急に整備していかなければならないのです。下水道の建設促進は自然と資源を守る私たちの義務でもあるのです。

清潔な街をつくる下水道

下水道は、私たちの生活環境を安全で快適なものにするために必要な施設です。

下水道は、街中の雨水を取り除き、大雨や台風ときの浸水を防ぐ働きをします。また水洗トイレが使えるようになり、汚いどぶや溝も整備されて街並みがすっきりし、カやハエの発生を防ぎ伝染病の予防にも役立ちます。



市長の対話ノート

自分の原点



No.141

産業構造や円高を含めて不況の真ただ中にあるだけに思います。企業は人なり、というだけに先人のいう「読み」「書き」「ソロバン」の大切さが、いま改めて考えさせられます。

「読み」とは読書ということ、先を見る(予測する)ことの意味があります。読書は作者の創造にふれることであり、創作の前兆でもあります。先人の歴史書の中から先々を読むことも、まねではなく教えられるものが多いということ。

「書く」ことは、正しい創作である習作ということもなくはないが、それは例外であって、自作がすべてであります。書くことを創造を育てる始まりではないでしょうか。

「ソロバン」とは計算であり、経営の初歩であります。数字に弱くは経営は成り立ちません。高度の計算はともかく、約束事の数字を追えば済むことです。

数字を正しく管理し、創造する感覚を強めよ。それが先人の教訓です。それに更に現代版の「情報」(この中に国際化も含めてよいのでは)を加えれば万全です。

ここまでは出来ませんが、次は「行動」です。これが一番の弱点です。成功、失敗があるからです。そこに生命を賭ける「自分の原点」があります。

伊山 健治郎